



## 留学先から見つめる日本内分泌学会 — 100周年への想い

日本内分泌学会 創設100周年、誠におめでとうございます。

現在、米国Cedars-Sinai Medical Centerにて研究留学生活を送っていますが、渡米前段階から今に至るまで学会を通じて知り合った先生方とのつながりに日々助けられています。と同時に、日本の内分泌学研究の礎を築いてこられた諸先輩方の業績の大きさを改めて実感しております。

100年にわたり学会が培ってきた学術的な基盤により日本の内分泌学研究は世界的な水準を保ち続けています。一方で、文化や慣習の異なる環境での研究経験は視野を広げ、自国での研究を新たな視点から捉え直す機会ともなります。学会が今後も若手研究者の多様な挑戦を支え、次の100年に向けてさらなる発展を遂げられることを心より期待しております。

服部 裕次郎

留学先: Cedars-Sinai Medical Center, America

日本内分泌学会 創設100周年、誠におめでとうございます。

私は現在、UCLAにてPIとして自身のラボを構え、「物理理論による医学の再定義」というテーマのもと、マクロファージの代謝やミトコンドリアの挙動を新たな視点で解析する研究に挑んでおります。

内分泌学は、生命の恒常性を司る非常に論理的でダイナミックな学問です。ここに物理学という異分野の視座を持ち込むことで、生命現象の根本原理が鮮明に見えてくる瞬間に興奮を覚えています。100周年という節目に立ち、次世代の先生方には、日本で培った緻密な臨床・基礎の知見を武器に、ぜひ既存の学問領域の境界線を越えていただきたいと願います。恐れずに世界へ飛び出し、異分野と融合することで生まれる革新が、次の100年の内分泌学を切り拓くと確信しています。

岩崎 広高

留学先: University of California, Los Angeles, America



## 留学先から見つめる日本内分泌学会 — 100周年への想い

日本内分泌学会 創設100周年、誠におめでとうございます。

私は現在、米国で基礎研究に取り組んでおりますが、海外への留学経験は自らの視野を広げ、大きく成長する貴重な機会であると実感しています。若い会員の皆様にも、ぜひ海外留学に挑戦し、内分泌学の新たな可能性を切り拓いていただきたいと願っております。

平田 悠

留学先: University of California San Diego, America

日本内分泌学会 創設100周年、誠におめでとうございます。記念すべき節目に寄稿の機会をいただきまして、ありがとうございます。私はトロントでの下垂体腫瘍の研究から留学生活を始めました。現地の研究棟は各ラボのドアが常に開かれており、専門外の研究者とも日常的に話せる環境でした。何気ない雑談がきっかけで共同研究に発展したこともあり、多様な視点が混ざり合う刺激的な日々を過ごしました。

その後エドモントンに移り、言葉の壁から一度は諦めかけた臨床の道にも挑戦しました。クリニカルフェローとして現場に立てたのは、日本で諸先輩方に教えていただいた臨床経験の土台があったからこそだと思っております。

カナダでの研究や臨床を通じ、どこに行っても日本人であるということで温かく迎え入れられたことが印象的でした。これは日本内分泌学会が紡いできた百年の歴史と懸命に仕事を積み重ねられてこられた先人の先生方のおかげに他なりません。深く感謝しております。

海外留学を志す先生方へ。日本を離れることで、多文化の中で新たな自分に気づき、挑戦したいと思える機会に出会うことがあるかもしれません。日本の内分泌学が積み重ねてきた百年の歩みが、きっと皆さまの背中をそっと支えてくれるはずです。その伝統を胸に、それぞれのペースで新たな一歩を踏み出していいただければ嬉しく思います。その挑戦が、本学会の次の百年をより輝かしいものにすると信じております。

日本内分泌学会の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

館野 妙

留学先: University of Alberta, Canada



## 留学先から見つめる日本内分泌学会 — 100周年への想い

日本内分泌学会 創設100周年、誠におめでとうございます。

私が初めて学会で発表したのは臨床内分泌代謝Updateで、幸運にも演題がProceedingに選ばれ、そのまま初めての論文執筆につながりました。この経験で「考える楽しさ」と「発信の喜び」を知り、研究の道に夢中になるきっかけとなりました。

現在はボストンで肝臓代謝をテーマに研究に取り組み、日々新しい発見に胸を躍らせています。帰国後は学会の発展に少しでも貢献できるよう、意欲を持って精進して参ります。

若い世代の皆様には、臨床だけでなく研究にも積極的にに関わり、内分泌学の奥深さと面白さを実感していただければ嬉しいです。研究および留学に興味がある方はいつでもご連絡ください。お待ちしております。

学会のさらなる発展を心よりお祈り申し上げます。

細川 友誠

留学先: Harvard University, America

セントルイス・ワシントン大学腎臓内科の荒井宏之と申します。この度は日本内分泌学会 創設100周年、誠におめでとうございます。

私は本学会に学生時代に入会して以来、学術集会やセミナーを通して本当に多くの先生方から温かいご指導と刺激をいただいております。本学会で培われた議論の土壌と人的ネットワークは海外で仕事をするうえで私の大きな心の支えとなっております。心から感謝申し上げます。

2025年7月に日本を離れ海外で研究を開始し実感することは、一つの学会が100年にわたり持続・発展してきたこと時代が世界的に見ても非常に稀有なことであり、我が国の内分泌領域における臨床・研究レベルの高さを物語っているという点です。国際性がますます重要となる時代においても、国内において世代や専門を超えて様々な先生方と本質的な議論をすることが必須であることには変わりがなく、本学会がそのような場としてあり続けてほしいと心から願っております。

私自身も微力ながら日本内分泌学会の次の100年に貢献できるよう、今後も研鑽を重ねてまいります。

荒井 宏之

留学先: Washington University in St. Louis, America





## 留学先から見つめる日本内分泌学会 — 100周年への想い

昨年6月より京都大学からハーバード医科大学ジョスリン糖尿病センターに留学しております安田拓真と申します。

ジョスリン糖尿病センターは米国マサチューセッツ州ボストン市にある世界的な糖尿病研究拠点であり、多様な領域の第一人者が集い、活発で温かい議論が交わされています。私は運動研究の第一人者であるLaurie Goodyear教授のもと、運動と脂肪組織の相互作用を研究しております。国籍や分野を問わず優れた研究者と切磋琢磨できる環境に刺激を受け、学びの多い日々を過ごしています。

近年、国際情勢や経済的要因から海外留学のハードルは高まっていますが、こうした時期だからこそ新しい視点を心得る挑戦の意義は大きいと感じます。成果がすぐに形にならなくとも、健康に学びを終え帰国できれば留学は成功だと思います。若手医師・研究者の皆さまが留学という挑戦に一步踏み出されることを願っております。私自身も、皆さまとともに日本内分泌学会のこれからの百年をさらに発展させていけるよう、精進してまいります。

安田 拓真

留学先: Joslin Diabetes Center, America

日本内分泌学会 創設100周年という記念すべき節目に、心よりお祝い申し上げます。

海外留学への挑戦は、内分泌学の「全身を俯瞰する学問」としての奥深さに魅了され、学会で目にした諸先輩方の国際的な活躍に強く触発されたことが契機でした。現在はカナダの地で、最新の知見に基づいた臨床実践や、国際共同研究による論文発表などの成果を積み重ねると共に、医学生から研修医、専攻医まで、多様な背景を持つ次世代の医師たちと日々真摯に向き合っています。

異文化環境での臨床・研究・教育活動を通じて、自らも学びながら後進を指導する経験は、医師、研究者、教育者としての在り方を再定義する貴重な糧となっています。若手の先生方には、ぜひ世界へ飛び込む勇気を持っていただきたいです。その一步が次なる100年を切り拓く原動力となります。共に世界の舞台で研鑽を積み、患者さんへの貢献、医学の発展、後進の育成に尽力していきましょう。

館野 透

留学先: University of Alberta, Canada